

研究報告
(研究プロジェクト2)

オリンピックの危機と再生

関根正美 (スポーツ哲学研究室)

はじめに

本プロジェクトは現代オリンピックの危機的状況を分析し、その危機的状況を打開するための方策ならびに提案を構築することを目的に設定されている。それは同時にオリンピックがオリンピズムのもとに有する潜在力を現実のものにする道であると考え、本年度は以下の二つの調査研究を中心に進めた。

1. アンチ・ドーピングに関する研究調査

依田充代

目的：オリンピックスポーツ文化研究所、研究プロジェクト「オリンピック教育&アンチ・ドーピング教育調査」と「オリンピックの危機と再生」に対して、イタリア・アンチ・ドーピング機構およびUISP（みんなのスポーツ協会）への聞き取り調査を行う。

計画：2018年2月16日（金）～2月23日（金）

CONI - NADO（イタリア・アンチ・ドーピング機構）聞き取り調査

Uisp Nazionale（みんなのスポーツ協会）聞き取り調査

<調査項目>

1. イタリア・アンチ・ドーピング機構の設立と役割
2. イタリアのアンチ・ドーピング教育について
3. イタリアのドーピング実施率やその動向について
4. ドーピング対策について

5. 有名スポーツ選手のドーピングの実態について
6. 一般スポーツ選手のドーピング実態について
7. 予算について
8. 今後の活動について
9. その他

調査結果については「オリンピックスポーツ文化研究」に投稿予定である。

2. オリンピックのレガシー：宮城県石巻市 聖火リレー調査

亀山有希

目的：2020年東京大会のレガシー研究として、宮城県石巻市における聖火リレーに関する資料収集ならびにインタビュー調査を行った。

計画：2017年9月

調査結果：現地では東日本大震災発災を契機に復興とスポーツの活動（例えば、絆駅伝など）が継続されていることが明らかとなり市民スポーツの定着を確認することができた。一方で、聖火リレーなどのイベントは組まれているものの、東京オリンピック・パラリンピック2020に対する期待度については明らかとなっておらず、今後、東日本大震災の復興と東京オリンピック・パラリンピック2020の関連性や実態についても明らかにする必要がある。

まとめ

2年間の本プロジェクトは、現代オリンピックの抱える危機の中でもドーピング問題に焦点を

絞って研究を行ってきた。また、オリンピックを再生させる一つの道として「レガシー」が今年取りあげられた。レガシーについては有形のレガシー、無形のレガシーという概念で近年の研究が進められ、オリンピック・パラリンピック大会の準備段階でも議論がなされている。この問題は、

オリンピック・パラリンピックが次世代に何を残せるかという問題と関わり、さらに今年度の研究は震災復興を視野に入れたレガシー研究に臨んだ点に重要性と難しさがあったといえるだろう。今後の研究の展開が必要と思われる。

(受理日：2018年1月31日)